アルテス　リベラレス　（岩手大学人文社会科学部紀要）
第98号　2016年6月　１頁～40頁

『私立図書館宮崎文庫仮図書目録』の翻刻（一）

高　橋　和　孝[1)]
家　井　美千子[2)]

はじめに

宮崎文庫は，紫波郡見前村（現盛岡市都南地区）に存在した私立図書館である。開館は大正４年（1915）で，昭和16年（1941）までは活動していたとされる。その後1940年代中頃に閉館したとみられ，蔵書は岩手大学などに移動し，現在に至っている。

近年，本学部の日本文学担当の教授である家井を中心とし，国際文化課程アジア文化コース学生有志によって宮崎文庫をはじめとした岩手大学図書館所蔵古典籍の悉皆調査が進められており，その成果が徐々に蓄積されつつある。先に概略を紹介した同文庫に関する事項なども，この調査の中で判明したことである。なお，平成26年度（2014）における調査状況については，高橋と家井が既に報告した通りである[3)]。

一連の調査が進展する中で，「宮崎文庫」の蔵書印や岩手大学関係の蔵書印がない古典籍が大量に見出された。これらについては，岩手大学図書館に所蔵された経緯など不明な点が多かったが，「宮崎文庫」の蔵書目録である『私立図書館宮崎文庫仮図書目録』（写真１，以下『仮目録』）[4)]が発見されたことによって，その一部に宮崎文庫の蔵書が含まれていることが明らかになった。[5)]

このように，『仮目録』を翻刻し，活用することは今後の調査において極めて重要な意味を持つことと言えよう。更に，史料としての『仮目録』からは，近代蔵書群の構成などが読み取れるほか，書籍の受領に関する記録や，複数回に亘る蔵書整理の痕跡など，宮崎文庫の実態についての数多くの記載が見える点も見逃せない。『仮目録』には，単なる蔵書目録以上の史料的価値が存在

写真１『仮目録』表紙

１）岩手大学大学院人文社会科学研究科修士課程国際文化学専攻（東アジア文化論）を2015年３月に修了。2015年４月より北上市立博物館専任研究員。
２）岩手大学人文社会科学部教授（日本文学）。
３）高橋和孝・家井美千子「岩手大学図書館所蔵の「宮崎文庫」を中心とした古典籍のアーカイブ化に向けて」（岩手大学人文社会科学部紀要『アルテスリベラレス』96号，2015年）。
４）岩手県立図書館所蔵（太田孝太郎氏旧蔵，請求番号／02.9／8／）。
本史料は盛岡市都南歴史民俗資料館河野聡美氏よりご教示を賜った。
５）例えば「盛岡菊池家蔵書」など（注（３）参照）

しているのである。

そこで，本稿においては『仮目録』の書誌情報とその成立に関する試論及び翻刻を提示し，その基礎的な性格を明らかにしていく。なお，本稿の体裁上，翻刻などは横書きとなっているが，原文では縦書きである点はご了承頂きたい。また，翻刻は「おわりに」の後に掲載している。

1　書誌情報

①題名

外題：「私立図書館宮崎文庫仮図書目録」

内題：「私立図書館仮図書目録」（巻首）

②構成と丁数

前付と本文で構成されている。本文は料紙の寸法（後述）から3つ（本文イ・ロ・ハ，ロのみ料紙が小さい）に分割される。それらの丁数を示すと以下の通りとなる。

前付：５丁　本文イ：38丁　本文ロ：53丁　本文ハ：44丁　　計139丁

③料紙と寸法

本書では以下の料紙の使用が確認された（表１）。寸法については，単位はセンチメートルで，折った状態でのものである（匡郭についても同様）。

表１　『仮目録』使用料紙

料紙	名称	料紙寸法	匡郭寸法	匡郭線	行数	柱	その他記載	使用	丁数	備考
Ⅰ	厚紙	24×16.5	-	-	-	-	-	表紙・裏表紙	(2枚)	半丁分の大きさ
Ⅱ	罫紙A	23.9×14.3	13×19.7	四周双辺	10	単黒魚尾	-	前付１丁目	1	-
Ⅲ	和紙	24.5×14.7	-	-	-	-	-	前付2～5丁目	4	-
Ⅳ	罫紙B	24.2×14.5	19.6×12.9	四周双辺	12	模様	表右下「(十二)」			
							裏左下「赤澤號製」	本文イ20丁目まで	19	間に1丁のみVの料紙が使用されている
Ⅴ	罫紙C	24.3×14.6	19.7×13.5	四周双辺	12	単黒線	-	本文イ21~38丁目 本文ハ1~21丁目	40	本文ハで使用されている料紙の一部(6丁分)に紙質の違いあり
Ⅵ	罫紙D	22.6×14.7	19.6×13.2	四周双辺	12	模様	表右下「(十二)」	本文ロ	53	-
							裏左下「赤澤號」			
Ⅶ	罫紙E	24.6×15.1	19.8×13.3	四周双辺	12	単黒線	裏左下「清(平野製)」	本文ハ22~34丁目	13	-
Ⅷ	罫紙F	24.4×14.9	20.1×13.5	四周双辺	12	単黒魚尾	-	本文ハ35~44丁目	10	-

※罫紙の匡郭はすべて青インクで印刷

④装訂

和装本，仮綴じ（綴じ紐には麻とみられる植物性のものが使用されている）。

料紙Ⅰ・Ⅶ以外には，現在の綴じ穴とは別の綴じ穴がある（料紙によって相違）。特に，本

文ロの15～34丁目は，現在の綴じ紐とは別に紙縒で綴じられている。これらの点から，現在の『仮目録』は複数の目録を合冊し改装されたものと推察される。

なお，本書には水損の跡があるが，その痕跡が全体に亘っているため，これは現在の形になった後のものとみられる。

⑤使用筆記具

前付は墨書のみ，本文は主に墨書であるが，ごく一部では朱書が用いられている。

書入れには，朱書（朱と墨が混じったような色のものもある）の他，鉛筆，赤・桃色のインクが使用されている。

⑥記載方法

前付は，罫紙であればそれに従い，白紙であれば界線などは引かずに使用している。

本文は，行の記載は罫紙の界線に従い，列は鉛筆で横界線を引き使用している（写真２）。横界線には「書名」・「編著者名」・「装」・「巻数」・「冊数」が振られており（本文イ・ロの冒頭に記載，ロ冒頭の「冊数」の記載は破損），それに準じて書名などが記述されている。横界線の大まかな幅は，書名：10～11㎝・編著書名：3.5㎝・装：1.5㎝・巻数：２㎝・冊数２～３㎝である。但し，横界線に関しては本文の一部で界線の数が異なっている場合が極少数ながら存在し（本文イ38丁目表など），またこれが全く書かれてない場合もある（料紙Ⅷなど）。

字体については，前付は３～５丁目の「館則」の部分は楷書体，１・２丁目はやや崩れた楷書体である。本文は，本文イと本文ロの途中までは楷書体であるが，ロの途中から徐々に字体が崩れ始め，ロの46丁目辺りから本文ハにかけては草書体で記載されている。

写真２　本文イ１丁表

なお，草書体の部分になると，原則的には先の横界線の記載に準じて書名などを記述するが，著者名がほとんど記されなくなるほか，巻数・冊数の順序が逆になるなど，記載に乱れが生じている。また，この部分の一部には，書名などの他に書籍の寄贈者名や寄贈年月日などが記載されている。

⑦書入れ

本文全体に亘る主な書入れとして，書名の下にある点（批点か）や三角の記号，枠外上部にある記載・記号などが挙げられる。この中でも注意を要するのが，枠外上部の記号である（写真３，本稿ではこれを「上部記号」と呼称する）。上部記号は片仮名や漢字一字，または記号（点，三角形など）が用いられ，特に書名などの注記でない一字のものは，書籍の分類を省略し記したものと推測される（表２）。なお，この記号は墨書か朱書である（「モ」のみ鉛筆書）が，記号や同じ物であってもそれが記される本文の位置によってその色使いは異なっている。

写真３　上部記号

表２　上部記号一覧と対応する書籍分類

上部記号	分類	上部記号	分類
シ	神道	モ	？
レ	歴史	ケ	経書？
随	随筆	ツ	？
コ	古典	ブ	文章？
ジ	辞典？	ゴ	語学
有	有職	チ	地理？
法	法律		

これらの記号が記された時期については現時点では判然としないが，一部の記号については水損の後に書かれたと推測されることから，現在の形態になってからのものも含まれていると考えられる。また，同じ記号であっても二種類の色が用いられている場合もあり，一度に全ての記号が付されたのではなく，何回かに分けて記された可能性がある。現時点では，上部記号に関してはこれ以上のこと不明であるが，他の書入れとの関連も含めて，今後精査していく必要があろう。

⑧付属史料

付属史料として以下の四点が確認された。

ⅰしおり（本文イ20～21丁目間）

洋紙にガリ版刷で「第２編」・「第１章」・「第１節　村名」などが書かれたものを破って使用している。元は書籍の１頁であったとみられるが，詳細は不明である。なお，2014年７月に岩手大学図書館が『仮目録』を写真撮影した時点ではこれが残存していたが，2016年３月に筆者が確認した際には失われていた。

ⅱ新聞紙（本文ハ８丁目）

本文ハ８丁目の袋中に入っている新聞記事の切り抜きである（発行年未詳）。片方はいくつかの記事がある面で，もう一方は広告となっている。広告面の余白に「盛岡図書館書籍部数」と墨書されていることから，必要であった記事は「盛岡図書館」に関する「図書館の現況備付図書数」の部分であろう。

ⅲしおり（本文ハ10～11丁目間）

白紙のしおりである。

Ⅳ新聞紙（裏見返し）

裏見返しに４種類の新聞記事の切り抜きが貼られている。その記事ないし内容を上から順に列記すると，「館外貸出開始県図書館」・「（岩手県立図書館館則）」・「各図書館予算」・「（岩手県内図書館の予算・蔵書・一日平均閲覧人数）」である。

２　成立時期

本書の成立時期については，奥付など筆写に関わる確実な記載が存在しないため，本文中の年月日の記載や，先に報告した書誌情報から推定していく。

本文中の年時に関する記載については，草書体の部分に存在する。その記載で最も古いとみられるのは，「六年三月三十一日現在」（本文ロ53丁目裏）である。これには年号が記されていないが，以降の年時に関する記載に「大正」の年しか用いられていないこと及び，大正７年（1918）以降は大正14年（1925）まで連続して年号の記載があることから，大正６年（1917）の記載と判断される。これとは逆に，最も新しい年時の記載は「大正十四年三月三十一日現在」（本文ハ38丁目表）であり，この二つの記載から判断すると，草書体が用いられている本文ロのいずれかの地点から本文ハに至るまでの部分は大正６年以降同14年以前の成立と考えられる。

更に付言するならば，この部分については大正６年から順次書名などが記されていることや，書籍の寄贈記録及び購入記録が記載されていることから，一時期に集中していわゆる目録を作成したのではなく，増加した書籍をその度毎に控えたものと考えられる。また，所々巻数・冊数を数えた結果が記されている部分（先の「現在」の部分はこれに関わるもの）も存在している。これら一連の記載状況からすると，以上の部分は館務に関わるものである可能性が想起されよう。つまるところ，この部分は大正６年から大正14年までの館の運営にかかわって作成されたいわば台帳と推定されるのである。

この他にも，本書には前付と本文イの書入れに年時が記載されている。前付には，「宮崎文庫開庫届写」の部分に「大正四年八月二十七日」，館則の部分に「五，開館年月日　大正四年八月卅一日」とある。書入れに年時のあるものは，本文イ２丁目表の枠外にある「重本故九年七月廿一日煙山校訓導浜田氏ニ譲与ス」のみである。

前付の部分に関しては，開庫届のものは写であるため，正確な筆写年時が明らかでない。館則のものについてもその点は同様であるが，前付の「例言」に「看者ノ便宜ニ本庫ノ規定ヲコヽニ付記ス」とあることから，前付部分の成立時に綴じこまれたものとみられる。しかし，やはり年代についてははっきりしない。いずれにせよ，前付にみえる年時については，大正４年（1915）以降のものということしか確実なことは判明しない。

書入れのものに関しては，後の追記の可能性も全く存在しない訳ではないが，先に述べたように，大正６年以降は館の運営に関わる台帳が作成されている時期であり，このような動きとここにみえる書籍の移動とは蔵書の管理という面で共通点がある。つまり，この記載はある程度の信頼がおけると評価できよう。そして，この書入れの年代に信をおくと，ここから本書の成立について重要な点が導き出せる。それは，本文イが大正９年（1920）段階で既に存在していた可能性があるという点である。

では，本文イが大正９年に存在していたとした場合，その成立年代の年代はいつ頃となるのであろうか。そこで見ておきたいのが，本文イに用いられている料紙である。イの料紙の内，21丁目から37丁目までの料紙Ⅴは紙の種類に関わる記載はなく，具体的な料紙の作成時期などは不明である。一方，1丁目から20丁目まで用いられている料紙Ⅳは，料紙を広げた時右下に「(十二)」，左下に「赤澤號製」と料紙の種類に関わる記載が存在している。ここにみえる「赤澤號」とは，明治24年（1891）に赤澤亦吉氏が盛岡に創業した「赤澤号」という紙・文具の卸小売業社のことを示すと推測される[6]。同社で取り扱っていた罫紙の更に詳しい分類，作成年代などは調査をしておらず不明であるが，「赤澤号」社が創業した明治24年が，料紙Ⅳが用いられている部分の上限と考えて間違いはあるまい。

なお，本文イの部分で使用されている分の料紙Ⅴについても，料紙Ⅳと同じ形式で本文が記載されていることや，現在の綴じ穴とは別の綴じ穴（外側に二カ所）の位置が同じことから，同じ時期に使用されていたと推測される。また，本文ハでも同じ料紙が使用されているが，ここに記載されている年時は大正７年から同10年（1921）であり，断定はできないが，この間に本文イにおいても料紙Ⅴが同じく用いられていた可能性が高い。つまり，本文イが作成されたのは明治24年以降大正９年以前の時点で，料紙の使用を含めて考えると，大正７から同９年頃と推定可能である。

以上のように，本文イと本文ロの途中からハについてはおおよその成立時期が判明した。で

６）現在，株式会社赤澤紙業。本稿で紹介した部分は同社HP「会社沿革」（http://akazawa-group.com/publics/index/15/，平成28年３月25日閲覧）より引用。

は，残った部分の本文ロについてはどうだろうか。まず，本文ロについて，年時や料紙について基本的なことを確認すると，年時については先に触れた大正６年のものが確認され，料紙は料紙を広げた際に右下に「十二」，左下に「赤澤號」とあるもの（料紙Ⅵ）が使用されている。なお，現在の綴じ穴と別の綴じ穴（現在の穴の周囲に三カ所）が存在するが，これらはすべて同じ位置にあり，元は同じく綴じられていた痕跡である。この綴じ穴と，本文ハの別の綴じ穴とは位置が一致しないが，書き続ける中で別の大きさの異なる料紙を使用し始めたことで綴じ穴も変更されたとみるべきであろう。

これらの点から，本文ロの成立は明治24年以降で，末尾の本文ハに接続する部分については大正６年頃，それ以前の目録の部分は，以降の部分と綴じ穴が同じことや同じ料紙が用いられていることからこれに連続するものとみられ，その成立は大正６年より時期が遡ると推察される。すなわち，本文ロの目録の部分が本書において最も古い成立である可能性がここに示されているのである。

では，本文ロの目録部分は具体的にいつ頃の成立なのであろうか。これについては，以下の史料から一つの推論を提示しておきたい。

史料１　「宮崎文庫開庫届写」（「～～」は住所のため伏せた。下線は筆写注）

私立図書館設置開申

本文庫は今秋行はせらる御大典
を記念し本月三十一日の佳暦を望
公開仕るに付<u>草紙一覧相添へ</u>此段及
開申候也
大正四年　　紫波郡見前村「～～」
八月廿七日
　　宮崎求馬印
岩手県知事大津麟平殿

史料１は本書の前付２丁目に綴じられている。内容としては，宮崎文庫の開館にあたって岩手県に届け出た文書の写しである。この中で，本書の成立を考える上では，下線部の記載が注目される。ここには，宮崎氏が大正４年の同文庫開館にあたり「草紙一覧」をこの届とともに岩手県に提出していたことが記されている。つまり，同文庫開館時には既に蔵書の目録が存在していたのである。この時に提出された目録の詳細は不明であるが，開館にあたって蔵書を整理し，公的機関に提出するために作成された目録であった可能性も想起される。時期的にみて，この目録と，大正６年以前の本文ロの目録部分とは極めて近しい関係にあった可能性が高く，或はどちらかが原本であったのかもしれない。いずれにせよ，本文ロの目録部分は本書の中で最も古いとみられ，その成立は文庫開館とほぼ同時期の大正４年頃であったと推定されるのである。

長々と前付及び本文の成立時期について推定してきたが，まとめると，

前付…大正４年以降
本文イ…大正７年～同９年頃
本文ロ（目録部分）…大正４年頃
本文ロ（台帳部分）・本文ハ…大正６年頃～同14年

となる。先述のように，本文ロ・ハについては記載が連続していることから，本来は一体のも

のであったとみられる。しかしながら，前付・本文イがいつ頃これらと一緒に綴じこまれ現在の形態になったのかについては明らかでない。そこで，現形態に移行した時期について，検討していくこととしたい。

まず，本書外題の「仮図書目録」（以下「目録」）とはどの部分を指しているのであろうか[7]。この点は，前付1丁目の「例言」に明瞭に示されている。

史料２　「例言」（下線は筆者注）

例言

一　仮図書目録ハ開庫ノ当時蔵架ノ
書目ヲ目当リ大雑把ニ分類表示シテ一
時看者ノ便ニ備フルニ過ギザレバ不備
ノ点ハ看者ヨロシク之ヲ諒セヨ
（後略）

史料２によると，「仮図書目録」は「開庫」「当時」に「蔵架」されていた「書目」を「大雑把」に「分類表示」し，「一時看者」（閲覧者）の閲覧に備えたものであったのだという。恐らく，開庫当時の書目というのは，先の「草紙一覧」もしくは本文ロの目録部にあたるようなもので，これを分類し直して整理したものがこの「目録」なのであろう。つまり，「目録」には図書の分類が示されており，この点が「目録」を判別する際に有効な点となるのである。そして，本書の本文中にこれが示されているのは本文イ（「神祇及国史」など）のみであり，他の本文中に図書の分類らしきものはみえない。すなわち，史料２で示されている「目録」の体裁を持っているのは本文イなのである。

また，この他にも本文イが「仮図書目録」であった証拠として以下の二点を指摘できる。一つは巻首題が「私立図書館宮崎文庫仮図書目録」である点，もう一つはイと前付の過去の綴じ穴の位置が同じという点である。これらの諸点から，外題で示されている「目録」とは，前付と本文イの部分であり，この部分が元々の「目録」であったとみられる。

以上のように，元の「目録」とされる部分は本書の前付と本文イであり，これらと先行する本文ロ・ハの部分とがともに綴じられたものが現在の『仮目録』なのである。では，これらが一緒に綴じこまれ，『仮目録』となった時期はいつ頃なのであろうか。

これを考える上で，まずは成立の下限についてみておきたい。『仮目録』に関わる各種の記載の中で，管見の限りその存在をはじめて述べたのは太田孝太郎氏である。太田氏が昭和31年（1956）に作成した『蔵書目録解題』に以下の記述がある[8]。

史料３　「宮崎文庫仮図書目録解題」

（前略）

7）現在の表紙は綴じ穴が２か所しかないため，元の表紙ではなく，後に付されたものであった可能性もある。しかし，これに墨書される外題に関しては巻首題などと題名が一致することから内題に準じて記されたものであると推定され，信用できる記載である。

なお，表紙には朱書で「甲号」の記載がある。この記載からすると，他にも目録が存在していた可能性が想起されるが，現時点で『仮目録』所収のもの以外には発見されていない。

8）太田孝太郎『蔵書目録解題』（岩手県立図書館，1956年稿，1958年刊）。

なお，本書は活字である。

宮崎文庫仮図書目録
宮崎求馬・道郎父子の蔵本，二千六百五十部六千九百六十九冊，郷土関係は主に見前を主としている。一般書は国書類多いが，とくに見るべきものがない。いま岩手大学に帰した。道郎昭和十九年九月歿す年六十才。
（後略）

これによると，「宮崎文庫仮図書目録」は「宮崎求馬・道郎父子の蔵本」を記したもので，総数は6,969冊あったとのことである。「郷土関係」書は「見前」のものが主で，その他は「国書」が多いとしている。

では，表題となっている「宮崎文庫仮図書目録」は，現在の『仮目録』と同一のものなのであろうか。史料3の記載からはこれが現形態の『仮目録』と同一のものであったのかどうかは判然としないが，現在の外題及び内題と表題が同じ点，本文ロ・ハに蔵書の冊数を計算した結果が記されている点[9]，『仮目録』の旧蔵者が太田氏となっている点から，現形態の『仮目録』と同一のものと推定することが可能である。つまり，この解題は本稿で採り上げている『仮目録』と同じものを典拠としてその総数や蔵本の傾向を記したものと判断される。そして，両者が同一であるならば，『仮目録』は昭和31年には現形態になっており，ここが成立の下限と考えられよう。

問題は，成立の上限がいつ頃なのかという点である。まず，確実なのは本文イが成立したとみられる大正７年から同９年である。先に述べたように，イは本文ロ・ハを整理して成立したと想定されることから，これの成立よりも現形態が古くなることは不可能である。記載されている年時では本文ハの大正14年のものが最も新しいが，目録ではなく書き継がれている台帳の部分であるため，綴じられた後に書かれた可能性が捨てきれず，成立の根拠とするのは難しい。つまるところ，成立の上限に関しては大正７年から同９年頃とみるのが妥当であろう。

これらの検討から，本書が現形態になった時期について，上限が大正７年から同９年頃，下限が昭和31年との推定結果が導き出された。時期としてかなり広い期間が成立の想定範囲となってしまったが，現時点ではこれ以上時期を絞り込むことはできない。ただし，本書の例言に「他日正鵠ニ近キ分類目録」を作成することが述べられており，実際本書全体に蔵書を再分類しようとした痕跡（上部記号など）があることから，宮崎文庫が活動していた時期には既に成立していた可能性もある。しかし，この点に関しては現時点では判然としない。

おわりに

本稿では，『仮目録』の基本的な書誌情報と成立に関する一試論を提示した。本書が現形態になった時期については十分に絞り込むことができなかったが，前付と本文については大正年間のものであり，宮崎文庫の活動を研究するうえで不可欠なものであるという点は明らかになったであろう。しかし，上部記号をはじめとした書入れが意味するものや，使用料紙が生産されていた時期の同定など『仮目録』そのものにも未解明の部分が多く残っている。今後はこれ

9）本文イにはこれがなく，さらに途中で冊数が記されていない箇所が散見されるため，ここから冊数を計算するのは困難である。

ら『仮目録』そのものの問題を解明しつつ，本稿で示した『仮目録』における宮崎文庫の蔵書目録と，現在残っている同文庫の蔵書とを対比させていく必要がある。これらの作業は今後の課題である。

〔謝辞〕
末筆ながら，本稿を作成するにあたり岩手大学図書館竹谷隆則氏，飯岡久美子氏撮影の写真を活用・掲載させて頂きました。また，史料調査及び翻刻の掲載にあたっては岩手県立図書館よりご協力を賜りました。この場を借りて篤く御礼申し上げます。

〔史料翻刻〕
○凡例
1　本稿で翻刻するのは『私立図書館宮崎文庫仮図書目録』の全文である。
2　翻刻は全て高橋が行った。
3　前付と後付については表を用いずに翻刻し，本文の部分については表を用いた。
4　翻刻にあたり，旧字・異体字・変体仮名は現行字体に改めた。
5　字が判読不能の場合，その字数分だけ「□」を表示した。
6　記号については可能な限り原史料の記号に形が近いものを選択したが，正確なものではない。
7　訂正・抹消についてはその記載に従ったが，訂正・抹消前のものでも判読できるものに関しては掲載し，その旨を前付は注記，本文は「備考」欄に示した。
8　近代史料であることに鑑み，個人宅の住所などは「〜〜」の表記で伏字にした。寄贈などに係わる記載については，都道府県名と氏名のみを掲載した。
9　前付・後付の翻刻では丁数を示した。改行に関しては元の体裁に従い，朱書については該当部分に「(朱書)」と記した。また，編集の都合上後付も前付に続けて翻刻した。
10　付属資料の新聞については翻刻を見送った。
11　本文については以下の基準で翻刻した。
・表には本文の体裁に従い「番号」・「本文丁数」・「上部記号」・「書名」・「編著者名」・「装訂」・「巻数」・「冊数」・「備考」の項目を設け記載した。ただし，途中で本文の体裁が変わった場合それに合わせて表の体裁も変更した。
・「番号」は便宜上振ったもので本文にはない。
・書名や編著者などの記載に関しては，原史料に従った。
・これらの項目のうち，記載がなかった場合はそれに合わせて項目欄も空欄とした。
・本文丁数については，表（オ）・裏（ウ）と略記した。
・本文の上部記号については，特に注記がない場合朱書である。異なる場合は備考欄にその旨を示した。
・「本文丁数」以下の項目と異なる記載については文字を太字にして区別した。
・書入れについては備考欄に掲載した。なお，墨書以外が用いられている場合はその旨を注記した。
・書名下に朱書で「△」が記されている場合があるが，これは「書名」の部分に記した。
・行や丁に何も記載されていない場合があるが，これは「(２行空白)」などで示した。
・欄が数種類分に亘って結合している場合があるが，これは原史料で複数の欄に跨って記載がある場合である。

・その他の所見がある場合は「備考」に注記した。

〇翻刻
〈前付・後付〉

（表紙）
（朱書）
申号
　私立図書館
　　宮崎文庫仮図書目録

（１丁目表）
　　(1) 例言
一　仮図書目録ハ開庫ノ当時蔵架ノ
　　書目ヲ目当リ (2) 大雑把ニ分類表示シテ一
　　時看者ノ便ニ備フルニ過ギザレバ不備
　　ノ (3) 点ハ看者ヨロシク之ヲ諒セヨ
二　他日正鵠 (4) ニ近キ分類目録ト其ニ及
　　ベク略 (5) 解題ヲモ付シテ看者ニ供フベシ
三　看者ノ便宜ニ本庫ノ規定ヲコヽニ付記ス (6)

（１丁目裏）…記載なし

（２丁目表）
　　私立図書館設置開申 (7)
本文庫は今秋行はせらる御大典
を記念し本月三十一日の佳暦を望
公開仕るに付草紙一覧相添へ此段及
開申候也
　大正四年　　紫波郡見前村「〜〜」
　　八月二十七日　　宮崎求馬印

（２丁目裏）
　岩手県知事大津麟平殿

（３丁目表）
一，名称　私立図書館宮崎文庫 (8)
二，位置　岩手県紫波郡見前村
　　「〜〜」
三，経費　設立者ニ於テ経営の一切ノ任
　(9)　　ニ当ル
四，敷地　壱段弐歩

建物坪数
四拾八坪五合
五，開館年月日
大正四年八月卅一日

（3丁目裏）
六，館則
私立図書館宮崎文庫規 (10) 則 (11)
第一章　総則
第一条　本館ハ図書漢籍ヲ中心トシテ
各種ノ図書ヲ蒐集シ公衆ノ閲 (12) 覧ニ
供スルを目的トナス
第二条　本館ノ閲覧時間左ノ如シ
但シ時宜ニ依リ伸縮スルコトアルベシ
自四月一日至九月三十日
午前八時ヨリ午後六時マデ

（４丁目表）
自十月一日至三月三十一日
午前九時ヨリ午後五時マデ
第三条　閉館日ハ左ノ如シ
但シ臨時閉館日ハ其都度之ヲ定ム
一，歳末歳首　自十二月廿七日至一月
五日　但シ当分ノ内 (13) 水土ノ両日開
館スルコトトス (14)
一，紀元節，春期皇霊祭，神武天皇
祭，明治天皇祭，天長節，秋季
皇霊祭，神嘗祭，天長節祝日，新
嘗祭，氏神祭日，

（４丁目裏）
第四条　年齢十四歳未満ノ者ハ図書
ノ閲覧ヲ許サズ
第五条　図書ヲ紛失汚損又ハ毀棄シ
タルモノニ対シテハ同一ノ図書若シク
ハ相当ノ価額ヲ以テ之ヲ賠償セシム
第二章　閲覧心得
第六条　図書ヲ閲覧セントスルモノハ閲（15）覧
名簿ニ書名及ビ住所氏名ヲ記入
シ事務員ニ差出シ借受ケタル図
書ハ退館ノ時ニ返還スベシ

（５丁目表）
第七条　閲覧室ニ在リテハ音読，雑談喫
　　烟　其他喧噪ナル動作ヲ禁ズ
第八条　特別ノ場合ヲ除クノ外図書ヲ
　　館外ニ貸出セズ
　　第三章　役員
第九条　一名ノ事務員ヲ置キ一切ノ事
　　務ヲ処理ス

（５丁目裏）…記載なし

（裏見返し）
（新聞紙添付，上から１「館外貸出開始県図書館」，２「（岩手県立図書館館則）」，３「各図書館予算」，４「（岩手県内図書館の予算・蔵書・一日平均閲覧人数）」）(16)

（裏表紙）
（背の部分上部に「十五」の墨書）

（１）「例言」の上部に抹消痕（２）「目当リ」…挿入（３）「ノ」…２字分訂正（４）「鵠」…１字分訂正（５）「略」…「略」字を二度訂正（６）本文4行目までの上部の下地に鉛筆で記載あり（５行分）「□□□　□帳・□□　四帳・□紙　四帳・半紙　廿帳・水引　二抱」（・は改行位置）（７）「私立」上部に蔵書印「岩手県立図書館蔵書」（朱），下部に黒インク判で「77223」（８）「私立図書館」…挿入（９）割書「及維持方・法」（・は改行位置）(10)「規」…「館」に訂正した後再訂正（11）「私立」以下全文抹消（12）「閲」…挿入（13）「ノ内」…挿入（14）「但シ」以下１行，全文抹消（15）「閲」…「図」を訂正（16）右下部に印あり

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
			私立図書館宮崎文庫仮図書目録					
			書名	**編著者**	**装**	**巻数**	**冊数**	
			神祇及国史					
1		シ　レ	神祇志料　△	粟田寛	和	二一	十七	
2		シ　レ	古語拾遺　△	斎部広成	和	一	一	
3		シ　レ	古語拾遺言餘抄　△	尚舎散人龍	和	三	三	
4	1オ	シ	祝詞正訓	平田鉄胤	和	二	一	
5		シ	祝詞考	賀茂真淵	和	三	三	
6		シ	大祓後釈	本居宣長	和	二	二	
7		シ	同上	同	同	同	同	
8		シ	大祓後々釈	藤井高尚	和	一	一	
9		シ	祝詞講義	鈴木重胤	洋	一八	二	
10		シ	祝詞略解	久保季茲	和	六	六	
11	1ウ	シ	新撰祝詞集　正編	山内祀夫	和	二	二	
12		シ	同上　続編	同上	和	二	二	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
13		シ	出雲神寿後釈	本居宣長	和	二	一	
14		レ	参考熱田縁起	秦鼎	和	一	一	編著者「校読」抹消
15		シ	諸社通用神祇服紀令大成		和	一	一	
16		シ	御鎮座次第記		和	一	一	
17		レ	造伊勢二所太神宮宝基本記		和	一	一	
18		レ	豊受皇太神宮御鎮座本記		和	一	一	
19		レ	御鎮座伝記		和	一	一	
20		シ	祭天古説弁義	宮地巌夫	仮	一	一	
21		シ	五儀略式	神宮教院	和	一	一	
22		シ	古語拾遺講義	久保季茲	仮	一	一	
23		シ	同上	佐伯有義	同	一	一	
24		シ	同上	大久保初雄	同	一	一	
25		シ	同上	宮崎某	同	一	一	
26		シ	神祇感応皇軍必勝篇	茂木充実	同	一	一	
27	2オ	レ	皇祖宮所考	菊池正古	和	一	一	頭注「重本故九年七月廿一日煙山校訓導浜田氏ニ譲与ス」
28		レ	倭姫命世記		和	一	一	
29		シ	講本伊吹於呂志	平田篤胤	和	二	二	
30		シ	伊勢太神宮神異記	度会延佳	和	二	二	上部記号「レ」抹消
31		シ	伊勢太神宮続神異記	度会弘乗	和	二	二	
32		シ	級長戸風	沼田順義	和	三	三	
33		シ	加倍志廼風弁忘	静斎義雄	和	二	二	
34		シ	神事略式	神習館	和	一	一	
35		レ	出雲国造神寿後釈	本居宣長	和	二	二	
36		レ	大道本義	浦田長民	和	三	三	
37		レ	伊勢二宮さき竹弁	本居宣長	和	一	一	
38		レ	宮比神御伝記	平田篤胤	仮	一	一	
39	2ウ	レ	国意考	賀茂真渕	和	一	一	
40		レ	くず花	本居宣長	和	二	二	
41		レ	道佐喜艸	本居春庭	和	一	一	
42		レ	国意考弁忘	三芳野城長	和	一	一	
43			神道発揮	岡本監輔	和	一	一	上部記号「レ」抹消
44		シ	神魂帰着正訓	江刺恒久	和	一	一	
45		レ	神代紀髻萃山蔭	本居宣長	和	一	一	
46		レ	神字日文伝	平田篤胤	和	二	二	
47		レ	玉襷	同上	和	一〇	一〇	
48		レ	玉鉾百首	本居宣長	和	一	一	
49	3オ	レ	玉鉾百首解	稲掛大平	和	二	二	
50		レ	二所大神宮神名略記	度会延経	和	一	一	
51		シ	大祓詞後釈	本居宣長	和	二	二	
52		シ	古道大意	平田篤胤	和	二	二	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
53		シ	神拝詞記		和	一	一	
54		レ	古史徴	平田篤胤	和	一一	一一	
55		シ	祝詞集	本居豊頴	和	二	二	
56		シ	神事式作行私録	赤前沢質	和	一	一	
57		レ	産須根神考	佐野経彦	和	一	一	
58		レ	天満天神鎮座記		和	一	一	
59		レ	弁財天因縁記		和	一	一	
60		シ	天津祝詞説略	鈴木雅之	和	一	一	
61		レ	産須那社古伝抄古義	六人部是香	和	一	二	
62		レ	古史成文	平田篤胤	和	三	三	
63	3ウ	レ	上記鈔訳	吉良義胤	和	三	三	
64		レ	霊能真柱	平田篤胤	和	二	二	
65		随	玉くしけ	本居宣長	和	一	一	
66		レ	医宗仲景	平田篤胤	和	一	一	
67			賀茂真淵全集	吉川弘文館編	洋	二〇九	六	
68		コ	続万葉論					
69		コ	続万葉秘説					
70		コ	古今集序表考					
71		コ	古今和歌集打聴					
72		コ	三代集総説					
73		ジ	冠辞考					
74		ジ	続冠辞考	服部高保				
75	4オ	ジ	同上	楫取魚彦				
76		ジ	冠辞考続貂	上田秋成				
77		シ	延喜式祝詞解　△					上部記号「レ」抹消
78		シ	祝詞考　△					
79		レ	日本紀和歌略註					
80		レ	古事記和歌略註					
81		レ	神楽歌考					
82		コ	催馬楽考					
83		コ	神遊考					
84		コ	風俗歌考					
85		コ	歌体約言					
86		レ	国歌論臆説					
87	4ウ	コ	再奉答金吾君					
88			にひまなび					上部記号「コ」他一字抹消
89		ジ	歌意考					
90		ジ	語意考					
91		ジ	文意考					
92		ジ	書意考					
93		コ	万葉考					

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
94	5オ	コ	万葉考別記					
95		コ	柿本人麿歌集之歌考					
96		コ	万葉集遠江歌考					
97		コ	万葉集竹取翁歌考					
98		コ	万葉集新採百首解					
99		コ	万葉問目					
100		コ	万葉再問					
101		コ	万葉集巻八疑条					
102		コ	同　九疑条					
103		コ	同　十二疑条					
104		コ	同　十三疑条					
105		コ	同　十四疑条奉問					
106	5ウ	コ	万葉解					
107		シ	宇比麻奈備					上部記号「コ」抹消
108		コ	伊勢物語古意					
109		コ	大和物語直解					
110		レ	日本紀訓考					
111		コ	文迩鬥致考					
112			上古男女髻弁					上部記号「コ」抹消
113		随	古冠考附直冠考					
114		随	古器考					
115		随	かさねのいろあひ					
116		ジ	国意考					
117		コ	三部仮名鈔言釈					
118	6オ	コ	県居雑録					
119		コ	県居問答書					
120		コ	龍のきみへ問ひ答へ					
121		コ	老水の花					
122		コ	県居すさみぐさ					
123		コ	賀茂翁遺草					
124		コ	かりの生きかひ					
125		コ	県居書簡					
126		コ	加茂翁家集					
127		コ	加茂翁家集拾遺					
128		コ	加茂の水川					
129		コ	荷田在満家歌合					
130	6ウ	コ	さき草					
131		コ	うめあはせ					
132		コ	源氏物語新釈総考					
133		コ	同　新釈例					
134		コ	同　新釈					

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
135			本居全集	吉川弘文館編	洋	ニ-八	七	
136		レ	古事記伝					
137		ジ	玉かつま					
138		コ	家の昔物語					
139		コ	くずばな					
140		コ	菅笠日記					
141		レ	国号考					
142		コ	真暦考					
143		コ	真暦不審考弁					
144		コ	玉くしげ					
145		コ	秘本玉くしげ					
146		コ	答問録					
147	7オ	レ	神代正語					
148		レ	神代紀髻萃山蔭					
149		レ	天祖都城弁々					
150		レ	伊勢二宮さき竹の弁					
151		コ	馭戎概言					
152		コ	鉗狂人					
153		コ	呵刈葭					
154		ジ	漢字三音考					
155		コ	天迩遠波飛母鏡					
156		ジ	字音仮字用格					
157		ジ	地名字音転用例					
158		ジ	詞玉緒					
159		ジ	玉あられ					
160	7ウ		続紀歴朝詔詞解　△					上部記号「シ」抹消
161		シ	大祓詞後釈					
162		シ	出雲国造神寿後釈　△					
163		コ	石上私淑言					
164		コ	万葉集玉の小琴					
165		コ	古今集遠鏡					
166		コ	新古今集美濃の家つと					
167		コ	美濃の家つと折添					
168		コ	鈴屋集					
169		コ	まくらの山					
170		コ	紀見のめぐみ					
171	8オ	コ	むすひすてたる枕の草葉					
172		コ	詩文稿					
173		コ	源氏物語年紀考					
174		コ	源氏物語玉の小櫛					
175		コ	後撰集詞のつかね緒					

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
176		コ	古語拾遺疑斎弁					
177		コ	国歌八論斥非評					
178	8ウ	コ	おもひくさ					
179		コ	臣道					
180		ジ	詞八衢	本居春庭				
181		ジ	詞通路					
182		コ	後鈴屋集前編					
183		コ	同　後編					
184		レ	玉鉾百首解　△	本居大平				
185		コ	万葉山常百首					
186		コ	馬名合解					
187		コ	稲葉集					
188		コ	倭心三百首					
189		コ	近世三十六人撰					
190	9オ	コ	己未紀行					
191		コ	おかげまうでの日記					
192		コ	名草の浜つと					
193		コ	有馬日記					
194		コ	草まくらの日記					
195		コ	関の駅					
196		コ	藤垣内文集					
197		シ	神楽歌新釈					上部記号「コ」抹消
198		コ	百人一首梓弓					
199		コ	古学要					
200		コ	藤垣内答問録の一　答伴信友書					
201		コ	同　上の二　答村田春海書					書名「同上」抹消し「答村田春海書」に訂正
202	9ウ	シ　レ	本宮神社考定　△	本居内遠				
203		シ　レ	熊野神社神号神位　△					
204		シ　レ	伊太祁曽三神考　△					
205		シ	三穂窟考　△					
206		シ　レ	大地主神の一則　△					
207		コ	妹山背山弁					
208		コ	黒鳥の考					
209		コ	丹敷浦考					
210		コ	天野告門考					
211		コ	小野小松考					
212		随	賤者考					
213		有	冠帽革制考　一名古々路婆					
214	10オ	コ	後奈良院御撰何曽之解					
215		コ	条里図帳考					

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
216		コ	和歌の浦鶴					「の」追筆
217		レ	紀伊国造職補任考					
218		レ	大饗机之考証					
219		有	半臂雛頭考証					
220		コ	ふぢごろも					
221		コ	かはらよもぎ					
222		コ	尾張浜主考					
223		コ	古学本教大意					
224		有	古今官位指図					
			加茂本居両全集ヲ神祇ノ部ニ入レルハ神祇に関スル者少ナキニアラザレバコヽニ収ム					
225			明治諸祭祝詞集		和	一	一	
226	10ウ	レ	志評論		和	三	三	
			（以下12行空白）					
227		レ	鼇頭古事記	度会延佳	和	三	三	
228		レ	古訓古事記	本居宣長	和	三	三	
229		レ	同　書入本	同上	同	同	同	
230		レ	古事記標註	敷田年治	和	七	七	
231		レ	古事記伝	本居宣長	和	四七	四七	冊数・巻数「四四」を「四七」に訂正
232	11オ	レ	英訳古事記	飯田永夫	和	一	一	
233		レ	古事記便要	那珂通高	和	二	二	
234		レ	日本書紀	黒羽藩版	和	三三	一六	
235		レ	同　通証	谷川士清	和	三五	二三	
236		レ	同　通釈	飯田武郷	洋	七二	六	
237		レ	続日本後紀纂話	村岡良弼	和	二〇	一〇	
238		レ	大日本史	水戸家蔵版	和	二四三	二五	
239		レ	神祇志	同上	和	二〇	四	
240		レ	氏族志	同上	和	一二	二	
241		レ	職官志	同上	和	五	一	
242		レ	食貨志	同上	和	一四	三	
243		レ	仏事志	同上	和	六	一	
244		レ	臣連ニ造表	同上	和	二	一	
245	11ウ	レ	公卿表	同上	和	七	三	
246		レ	野史	飯田忠彦	和	二九〇	三〇	
247		レ	国史大系	経済雑誌社版	洋	六四四	一七	冊数「一七」を「一八」にし、更に「一七」に訂正
248		レ	日本書紀					
249		レ	続日本紀					
250		レ	日本後紀					
251	12オ	レ	続日本後紀					
252		レ	文徳実録					

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
253		レ	三代実録					
254		レ	日本紀略					
255		レ	日本逸史					
256		レ	扶桑略記					
257		レ	古事記					
258		レ	旧事本記					
259		シ	神道五部書					
260		レ	釈日本紀					
261		レ	本朝世紀					
262		レ	公卿補任					
263		法	令義解					
264		法	類聚三代格					
265		法	同　符宣抄					
266		法	続左丞抄					
267		法	延喜貞観延喜交替式					
268	12ウ	法	延喜式					
269		レ	百練抄					
270		レ	愚管抄					
271		レ	元亨釈書					
272		レ	古事談					
273		コ	古今著聞集					
274		コ	栄華物語					
275		コ	今昔物語					
276		コ	宇治拾遺物語					
277		レ	水鏡					
278		レ	大鏡					
279		レ	今鏡					
280		レ	増鏡					
281	13オ	レ	吾妻鏡		和	五二	一〇	
282		レ	同　集解		和	六	二	
283		レ	同　備考		和	一〇	三	
284		レ	南山史	成島司直	和	三〇	三	
285		レ	保建大記	栗山愿伯	和	二	二	
286		レ	通語	中井天楽	和	一〇	三	
287		レ	参考平治物語	水戸家出版	和	六	六	
288		レ	国史纂論	山県禎	和	一〇	一〇	
289		レ	本朝皇胤紹運録		和	一	一	
290	13ウ	◎モレ	史籍集覧	近藤瓶城編	和	九七〇	四六七	上部記号「◎モ」鉛筆書 巻数訂正あり（「四」を「九六七」に）
291		レ	日本政記	頼山陽	和	一五	八	
292		レ	近世日本世記		和		五	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
293		レ	日本外史	頼山陽	和	二二	五	
294		レ	続近世日本外史	関機	和	二	二	
295		レ	国史覧要	棚谷元善	和	一六	八	
296		レ	伝疑小史	中井積善	和	一	一	
297		レ	日本古代史	久米邦武	仮	一	一	
298		レ	徳川時代史	池田晃渕	仮	一	一	
299		モ レ	十三朝紀聞	源照矩	和	七	二	上部記号「モ」鉛筆書
300		モ レ	今日鈔	同		二		上部記号「モ」鉛筆書
301		レ	読史便覧	鈴木成章	和	一	一	
302		レ	明治勅語	植村泰通	和	一	一	
303		モ レ	殉難後草	馬場文英	和	一	一	上部記号「モ」鉛筆書
304	14オ	モ レ	白石遺文	立原万編	和	二	二	上部記号「モ」鉛筆書
305		モ レ	白石遺文拾遺	同上	和	二	二	上部記号「モ」鉛筆書
306		モ レ	矢島十二頭記	近藤瓶城編	和	一	一	上部記号「モ」鉛筆書
307		モ レ	奥州葛西実記	同上	和	一	一	
308		レ	大日本維新史	重野安繹	和	二	二	編著者「安繹」抹消後書直し
309		シ	垂加翁神説	跡部良顕				
310		レ	政事要略		仮	二五	一	上部記号に抹消あり
311		レ	古事談		和	六	三	
312		レ	続古事談		和	四	二	
313		レ	絵入平家語		和	一二	一二	
314		レ	平家物語		洋	一二	一	
315		レ	平家物語抜書		和	一	一	
316		レ	藩翰譜	新井白石	和	一二	七	
317	14ウ	レ	近古史談	大槻清崇	和	四	四	
318		レ	本朝武家評林大系図		和	五	五	
319		モ レ	水雄岡志	栗原柳莽	和	五	五	上部記号「モ」鉛筆書
320		レ	善隣国宝記	臥雲山人	和	三	三	
321		レ	同上	同上	洋	三		
322		レ	続善隣国宝記		洋	一		
323		レ	続善隣国宝外記		洋	一		
324		レ	外蕃通書		洋	二七		
325		レ	校定増鏡	萩野由之	和		三	
326		レ	新撰年表		和		一	
327		レ	史籍年表	伴信友	和	一	一	
328	15オ	レ	御諡号年号読例	松浦詮	和	一	一	
329		レ	日本年表	落合直澄	仮	一	一	
330		レ	新撰東西年表	大槻如電	和	一	一	
331		レ	国史学の栞	小中村清矩	和	一	一	
332		モ レ	越洲考	井上頼国	和	一	一	
333		モ レ	氏族考	栗田寛	和	二	二	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
334		レ	明治聖勅集	佐村八郎	洋	一	一	
335		レ	上宮聖徳法王帝説新註	狩屋腋斎	仮			
336		レ	泰平年表		和	五	五	
337		レ	帝国小史	岡部精一	仮	一	一	
338		レ	増訂武江年表	斎藤月岑	洋	一二	一	
339	15ウ	レ	日本読史年表	大森金五郎	仮	一	一	書名「日本」は枠外上部にあり
340		モレ	農政垂統記	勧業寮	和	四	四	上部記号「モ」鉛筆書
341		レ	京都守護職始末	山川浩遺稿	洋	二	一	
342		レ	欧南遣使考	平井希昌	仮	一	一	
			（以下4行空白）					
	16オ・ウ		（未記載）					界線あり
			経子史					
343		ケ	古文孝経参疏	山中祐之	和	三	三	
344		ケ	孝経小解	熊沢蕃山	和	二	二	
345		ケ	孝経	山世璠	和	一	一	
346		ケ	孝経両造簡孚	東条一堂	和	一	一	
347		ケ	孝経鄭氏解補註	洪頤煊	和	一	一	
348	17オ	ケ	古文孝経定本	伊藤馨	和	一	一	書名「孝」を「古」に訂正
349		ケ	孝経大義	菫鼎	和	二	二	
350		ケ	古文孝経私記	朝川五鼎	和	二	二	
351		ケ	国字孝経		和	一	一	
352		ケ	四書		唐	三二	二	
353		ケ	同上			三二	二	
354		ケ	四書		和	三二	一〇	
355		ケ	四書集註俚諺鈔	毛利貞斎	和	五〇	五〇	
356		ケ	四書解義	大里穆訓点	和	三二	一五	
357		ケ	五経　道春点		和		一一	巻数「一一」を抹消
358		ケ	毛詩国字弁	東山	和	七	一〇	
359	17ウ	ケ	周易集註鈔		和	二五	二五	
360		ケ	易学啓蒙諺解大成	榊原玄輔	和	四	七	
361		ケ	詩経説約		和	二八	一四	
362		ケ	論語集解		和	一〇	二	
363		ケ	中庸発揮	伊藤維貞	和	一	一	
364		ケ	論語古義	同上	洋	二〇	一	
365		ケ	孟子論文	竹添井々	和	三	三	
366		ケ	周易	王弼	和	一〇	五	
367		ケ	古易断　内編	新井白蛾	和	一〇	一〇	
368	18オ	ケ	易学啓蒙		和	四	一	
369		ケ	中庸或問		和	一	一	
370		ケ	書経集註		和	六	六	
371		ケ	詩経集註		和		八	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
372		ケ	尚書註疏	孔穎達	和	二〇	一〇	
373		ケ	書経体註		唐	六	四	
374		ケ	論語古註疏		和	二〇	六	
375		レ	春秋左氏伝校本　三伝	豊嶋毅校	和	三〇	一五	
376		レ	春秋集伝		和	三七	一〇	
377		ケ	論語		和	二〇	二	
378		ケ	首書礼記集註		和	三〇	一五	
379		ケ	易経		和	二	二	
380		ケ	易学啓蒙		和	一	一	
381		ケ	詩集伝		和	二〇	八	
382		レ	左伝国字弁		和	三〇	一五	
383		レ	春秋左氏捷覧		和	一	一	
384	18ウ	レ	春秋左氏伝評林　林註		和	七〇	二〇	
385		ケ	周礼		和	四二	七	
386		ケ	弁疑録	伊藤長胤	和	四	二	
387		ケ	大載礼記		和	一三	二	
388		ケ	白虎通		和	四	二	
389		ケ	語孟字義	伊藤維禎	和	二	二	
390		ケ	経義摭説	山本信有	和	一	一	
391		ケ	韓文公論語集解		和	二	一	
392		ケ	近思録		和	一四	四	
393		ケ	同　示蒙句解		和	一四	一〇	
394		ケ	老子経国字解		和		三	
395		ケ	孫子俚諺抄		和	五	七	
396	19オ	ケ	孫子副詮	佐藤一斎	和	二	一	
397		ケ	無垢子註老子経		和	五	五	
398		ケ	戦国策評林		唐	一七	八	
399		ケ	揚子方言	楊雄	和	一三	一	
400		ケ	評註荘子	有井範平	和	一〇	五	
401		ケ	神義荘子因	秦鼎	和	一〇	六	
402		ケ	唐陸徳明荘子音義		和	三	三	
403		ケ	淮南鴻烈解		和	二一	一二	
404		ケ	同		和	七	二	
405		ケ	揚子法言		唐		一	
406		ケ	揚子方言					
407	19ウ	レ	左伝章句文字	伊藤子徳	和	五	五	
408		レ	晏子春秋		唐	九	一	
409		ケ	文中子		唐	一〇	一	
410		ケ	黄帝内経		唐	一二		
411		ケ	韓非子		唐	二〇	一	
412		ケ	山海経		唐	一六	一	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
413		ケ	東萊博議		唐	四	四	
414		ケ	小学本註　内外篇		和	二	二	
415	20オ	ケ	四書備考		唐	八	四	
			（以下10行空白）					
416		レ	史記評林	大郷穆訓点	和	一三〇	二七	
417		レ	後漢書評林		唐	一二〇	一五	装訂「唐」抹消後書直し
418		レ	元明清史略		和	五	五	
419		レ	評註十八史略	岩垣東園	和	七	七	
420		レ	同上	雨林	和	八	八	
421	20ウ	レ	綱鑑精采	葉向高進	和	一〇	一〇	
422		レ	国語定本	秦鼎	和	二一	六	
423		レ	資治通鑑	岡千仞訓点	和	二九四	八〇	
424		レ	竹書紀年		和	二	二	
425		レ	商搉		唐	一〇〇	四	
			（以下2行空白）					
			和漢ノ字書及（語学）書附類従					「類従本」を抹消し「（語学）書」とする 「附類従」を書き直す
426		ジ	和訓栞　上編	谷川士清	和	三四	三四	
427		ジ	同　中編	同上	和	三〇	三〇	
428		ジ	増補雅言集覧　広足補	石川雅望	和	五七	五七	書名「増補」は枠外上部にあり
429	21オ	ジ	雅言集覧　自い至か	同上	和	六	六	巻数・冊数「五」を「六」に訂正
430		ジ	俚言集覧	村田了阿	洋	三	三	
431		ジ	言海	大槻文彦	洋	一	一	
432		ジ	山彦冊子　一名難語考	橘守部	和	三	三	
433		ジ	冠辞考	加茂真渕	和	一〇	一〇	
434		ジ	類聚名物考		洋		一	
435		ジ	東雅　附索引	新井白石	和	二一	五	
436		ジ	和名類聚鈔	源順	和	二〇	五	
437		ジ	言泉	落合直文	和	五	五	
438		ジ	新撰字鏡		和	三	一	
439		ジ	日本辞林	大宮宗司	仮	一	一	
440		ジ	本朝辞源	宇田甘実	和	三	三	
441		ジ	国書解題	佐村八郎	洋			
442	21ウ	ジ	雅言解	鈴木重嶺	和	四	四	
443		ジ	日本大辞林	物集高見	洋	一	一	
444		ジ	古言梯標註	楫取魚彦	和	一	一	
445		ジ	玉霰	本居宣長	和	一	一	
446		ジ	弁玉霰論		和	一	一	
447		ジ	消息文例	藤井高尚	和	二	二	
448		ジ	音訓国字格	高井蘭山	和	二	一	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
449	22オ	ジ	下学集		和	二	一	
450		ジ	尚古仮字格		和	一	一	
451		ジ	同上		折	一	一	
452		ジ	和字大観抄	無相上人	和	一	一	
453		ジ	和字正濫抄		和	五	五	
454		ジ	仮名遺教科書	物集高見	和	一	一	
455		ジ	てにをは教科書	同	和	一	一	
456		ジ	言語四種論	鈴木朗	和	一	一	
457		ジ	活語断続譜	同	和	一		
458		ジ	和文類語解	岡村覚太郎	和	二	二	
459		ジ	国語学指南	斎藤普春	仮	一	一	
460		ジ	対照聖書辞典	田村直臣	洋	一	一	
461	22ウ	ジ	普通文典	峰原平十郎	仮	一	一	
462		ジ	訂正中等国文典	三土忠造	和	三	三	
463		ジ	国語かなつかひ	石田道三郎	仮	一	一	
464		ジ	国語学	関根正直	仮	一	一	
465		ジ	雅言仮名格同拾遺	市岡猛彦	和	一	一	
466		ジ	西行物語		仮	一	一	全文字抹消
467			註釈奥の細道	三宅木仙	仮	一	一	全文字抹消
468		ジ	言葉の本末		和	一	一	
469		ジ	国文辞典第一巻	大宮宗司	仮	一	一	
470		ジ	国文句読法	権田直助	和	一	一	
471		ジ	ひも鏡うつしの詞	市岡多気彦	和	一	一	
472		ジ	文法口授	鈴木弘泰	和	一	一	
473	23オ	ジ	通略延約弁	野々口隆正	和	一	一	書名「略」を「約」に訂正
474		ジ	仮名交文典	田中	仮	一	一	
475		ジ	語意考	加茂真渕	和	一	一	
476		ジ	仮名大意抄	村田春海	和	一	一	
477		ジ	訓点復古	日尾荊山	和	二	二	
			（以下8行空白）					
	23ウ		（未記載）					界線あり
478	24オ		群書類従	塙保己一	洋	一二七〇	一九	書名下に抹消あり
479		シ	神祇部			七〇		
480		レ	帝王部			三六		
481		レ	補任部			二五		
482		レ	系譜部			一八		
483		レ	伝部			二一		
484		法	官職部			八		
485		法	律令部			五		
486		法	公事部			五九		
487		有	装束部			二一		

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
488		コ	文筆部			三四		
489		コ	消息部			二〇		
490		コ	和歌部			四〇七		巻数「一八七」を「四〇七」に訂正
491		コ	連歌部			九		
492		コ	物語部			二〇		
493		コ	日記部			八		
494		コ	紀行部			三九		
495	24ウ	コ	管絃部			二一		
496		有	蹴鞠部			八		
497		有	鷹部			一〇		
498		コ	遊戯部			一七		
499			飲食部			一三		
500		レ	合戦部			六五		
501		レ	武家部			七七		
502		ツ	釈家部			七八		上部記号墨書
503			雑部			三七		
			（3行空白）					
504			古事類苑	神宮司庁	和	九八七	三五五	
505		レ	帝王部		和	二七	八	枠線下部に朱で「✓」
506	25オ	レ	神祇部　△		和	−〇〇	三〇	枠線下部に朱で「✓」
507			礼式部		和	三三	一六	枠線下部に朱で「✓」
508			武技部		和	二〇	六	枠線下部に朱で「✓」
509			政治部		和	−〇〇	三〇	枠線下部に朱で「✓」
510			法律部		和	六〇	一五	枠線下部に朱で「✓」
511			歳時部		和	二〇	八	枠線下部に朱で「✓」
512			外交部		和	二五	一〇	枠線下部に朱で「✓」
513			地部		和	五〇	二一	枠線下部に朱で「✓」
514			方技部		和	一八	八	枠線下部に朱で「✓」
515			官位部		和	八〇	二五	枠線下部に朱で「✓」
516			服飾部		和	二八	八	枠線下部に朱で「✓」
517	25ウ	コ	文学部		和	五〇	二〇	枠線下部に朱で「✓」
518			産業部		和	二八	一〇	枠線下部に朱で「✓」
519			遊戯部		和	一七	七	枠線下部に朱で「✓」
520			宗教部		和	六二	二八	枠線下部に朱で「✓」
521			動物部		和	二〇	九	枠線下部に朱で「✓」
522			居処部		和	一八	七	枠線下部に朱で「✓」
523			人部		和	三〇	一四	枠線下部に朱で「✓」
524			飲食部		和	一六	六	枠線下部に朱で「✓」
525	26オ		金石部		和	五	二	枠線下部に朱で「✓」
526			天部		和	四	二	枠線下部に朱で「✓」
527			植物部		和	二八	一四	枠線下部に朱で「✓」

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
528			兵事部		和	四八	一二	枠線下部に朱で「✓」
529			姓名部		和	一〇	四	枠線下部に朱で「✓」
530			楽舞部		和	三五	一三	枠線下部に朱で「✓」
531			封禄部		和	一〇	三	枠線下部に朱で「✓」
532			器用部		和	三〇	一一	枠線下部に朱で「✓」
533			称量部		和	三	一	枠線下部に朱で「✓」
534			泉貨部		和	七	二	枠線下部に朱で「✓」
535			総目録		和	二	二	枠線下部に朱で書き入れ
536	26ウ		索引		和	三	三	枠線下部に朱で書き入れ
537		コ	栗里先生雑著	栗田寛	和	六六	一六	
			（以下９行空白）					
538		ジ	字彙		唐	一四	一四	
539		ジ	字彙補		唐	二	二	
540		ジ	尓雅註疏		和	一一	五	
541		ジ	康熙字典		和	四〇	一四	
542		ジ	大広益玉篇	毛利貞斎	和	一二	一二	
543		ジ	経史摘語		和	二	二	
544	27オ	ジ	古今事文類聚前集	祝穆	和	六〇	二一	
545		ジ	同　後集		和	五〇	二〇	
546		ジ	同　続集		和	二八	一三	
547		ジ	同　別集		和	三二	一四	
548		ジ	同　外集		和	一五	八	
549		ジ	同　新集		和	三六	一五	
550		ジ	同　遺集		和	一五	九	
551		ジ	五雑俎		和	一六	八	
552			日本大辞林	物集高見	洋	一	一	全文字抹消
553		ジ	発字四声便蒙解		和	一	一	
554		ジ	同上		和	一	一	
555	27ウ	ジ	虚字解	皆川淇園	和	二	二	
556		ジ	続虚字解	同上	和	二	二	
557		ジ	太史公助字法	同上	和	二	二	
558		ジ	実字解	皆川淇園	和	三	三	
			（以下3行空白）					
			和漢法制及有職附漢					
559		法	校訂令集解		洋	一七	一	書名「校訂」は枠外上部にあり
560		法	令義解		和		一〇	
561		法	講令備考		洋	一〇	一	
562	28オ	法	律逸			八		
563		法	格逸			五		
564		法	式逸　巻上　弘仁式					
565		法	同　巻下　貞観式					

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
566		シ	延喜式工事解		洋	三		
567		有	同　工事解図録			一		上部記号墨書
568		有	同　同　通解			一		上部記号墨書
569		有	江次第鈔			一		上部記号墨書
570		法	御成敗式目		和	一	一	上部記号墨書
571		法	田園類説	谷川右衛門	和	二	二	上部記号墨書
572		法	標註職原校本	近藤芳樹	和	六	六	上部記号墨書
573		法	壺井職原抄	壺井義知	和	五	五	上部記号墨書
574		法	増註職原抄		和	二	一	上部記号墨書
575	28ウ	法	冠位通考	石川正朋	和	一	一	上部記号墨書
576		法	職原抄		和	四	四	上部記号墨書
577		法	同上		和	二	二	上部記号墨書
578		法	服忌令		和	一	一	上部記号墨書
579		法	儀式		和	一〇	一〇	上部記号墨書
580		法	官職知要		和	三	三	上部記号墨書
581		法	職原抄聞書		和	一	一	上部記号墨書
582		法	法曹至要抄		和	三	三	上部記号墨書
583		法	同　俗解	簗秀詮	和	三	三	上部記号墨書
584		法	衣文愚童訓		和	一	一	上部記号墨書
585		法	日中行事		和	一	一	上部記号墨書
586		法	三中口伝		和	一	一	上部記号墨書
587		法	内裏式		和	一	一	上部記号墨書
588	29オ	法	式目注		和	二	二	上部記号墨書
589		法	殿居袋		和	二	二	上部記号墨書
590		法	同上		折	一	一	上部記号墨書
591		法	青標紙		和	二	二	上部記号墨書
592		法	同上		折	一	一	上部記号墨書
593		法	四季の草	伊勢貞丈	和	四	二	上部記号墨書
594		有	軍用記	伊勢貞丈	和	四	二	上部記号墨書
595		法	古実年中行事		和	一	一	上部記号墨書
596			俳諧歳事記	曲亭馬琴	和	四	二	
597		有	大内裏図考証		和	三二	一四	上部記号墨書
598		有	貞丈雑記		和	一六	六	上部記号墨書
599		法	新律附例解補正	高橋秀好	和	六	六	上部記号墨書
600	29ウ	法	改正地方大成	橋爪貫一	和	五	三	上部記号墨書
601		法	地方大概集　第一第二集	加藤高文	和	九	一〇	上部記号墨書
602		法	天保御改正服忌詳解		和	一	一	上部記号墨書
603		有	武雑記補註	長沢伴雄	和	三	三	上部記号墨書
604		有	禁秘御鈔階梯	藤原公麗	和	三	三	上部記号墨書
605		法	制度通	伊藤長胤	和	一一	一一	上部記号墨書
606	30オ	有	本朝軍器考	新井白石	和	一二	五	上部記号墨書

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
607		有	同　集古図説	同	和	二	二	上部記号墨書
608		シ	葬礼私考	栗田寛	和	一	一	
609		シ	上等葬祭図式	常世長胤	和	一	一	
610		有	織文図会	本間百里	和	七	七	上部記号墨書
611		有	服色図解	同	和	二	二	上部記号墨書
612		有	尚古鎧色一覧	同	和	二	二	上部記号墨書
613		シ	喪儀略	源躬行	和	一	一	
614		法	科条類典	帝大	洋	二	二	上部記号墨書
615			王法論	鳥尾小弥太	和	一	一	
616		有	弓箭図式	栗原信充	和	四	二	上部記号墨書 上部記号「法」を「有」に訂正
617		法	本朝官職備考	三宅帯刀	和	七	五	上部記号墨書
618		有	官職田舎弁疑		和	四	一	上部記号墨書
619		有	水戸家儒葬法令		和	一	一	上部記号墨書
620		法	官職通解	千葉玄之	和	一	一	上部記号墨書
621		有	新撰立礼式	小笠原清務	和	一	一	上部記号墨書
622		有	弘安礼節		和	一	一	上部記号墨書
623		有	公事根源集釈	松下見林	和	三	三	上部記号墨書
624	30ウ	有	宮殿調度図解	関根正直	和	一	一	上部記号墨書
625		有	百寮訓要抄		和	一	一	上部記号墨書
626		法	皇室要典	和田信二郎	洋	一	一	上部記号墨書 上部記号「有」を「法」に訂正
627		法	新貨幣条例		和	一	一	上部記号墨書
628		法	貨幣条例備考		和	一	一	上部記号墨書
629		有	甲冑伝		和	三	一	上部記号墨書
630		有	甲冑名実伝		和	一	一	上部記号墨書
631		有	明珍家伝			二		上部記号墨書
632		有	甲冑録		和	二	一	上部記号墨書
633		有	甲冑制目次		和	三	一	上部記号墨書
634		有	源氏男女装束抄上		和	一	一	上部記号墨書
635			国家金銀銭譜	青木敦	和	一	一	上部記号抹消
636		有	装束甲冑図解	関根正直	和	二	一	上部記号墨書
637	31オ		和漢銭彙		和	一	一	
638		法	帝国憲法 義解 皇室典範	伊藤博文	洋	一	一	上部記号墨書
639		法	文化律		和	一	一	上部記号墨書
640		法	刑法		洋	一	一	上部記号墨書
641		法	式目注		和	二	二	上部記号墨書
	31ウ		（未記載）					界線あり
642	32オ		**明律**		和	九	九	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
643		法	福慶全書			三二	一八	上部記号墨書
644		法	仏国政法掲要					上部記号墨書 書名「政治」・「の□」を「政法」と訂正
			（以下9行空白）					
	32ウ		（未記載）					界線あり
			歌文					「語学」抹消
645		コ	校訂本朝文粋	小杉榲邨校	和	一四	八	
646		コ	菅笠日記	本居宣長	和	二	一	
647		コ	鶉衣	横井也有	和	一	一	
648		コ	同　続編	同上	和	一	一	
649	33オ	コ	同　拾遺	同上	和	一	一	
650			語意考	加茂真渕	和	一	一	全文字抹消
651		コ	さき草	藤井高尚	和	一	一	
652		コ	円珠庵拾遺六帖	僧絜沖	和	一	一	
653		コ	松屋文集	藤井高尚	和	二	二	書名「屋」に訂正あり
654		コ	同　後集	同	和	三	三	
655		コ	不繋舟	滋野貞融	和	三	三	
656		コ	十符の菅薦	近藤芳樹	和	四	四	
657		コ	みともの数	池原香穉	和	五	五	
658			近道子宝		和	一	一	書名下に批点（朱）
659			庭訓往来		和	一	一	書名下に批点（朱）
660			児女長成往来	十返舎一九	和	一	一	書名下に批点（朱）
661	33ウ	コ	庭訓往来精註鈔		和	一	一	
662		コ	槻乃落葉播摩下向の日記	荒木田久老	和	一	一	
663		コ	紫文製錦	源稲彦	和	二	二	
664		レ	頼義勢揃状		和	一	一	
665		コ	菅公須磨記		和	一	一	
666			通略延約弁	野々口隆正	和	一	一	全文字抹消
667		コ	撰集抄	西行記	和	九	五	
668			仮名大意抄	村田春海	和	一	一	全文字抹消
669		コ	扶桑拾葉集		和	四	一	
670		ジ	文法捷経	那珂通高	和	二	二	
671		コ	あつまなまり	石川六樹園	和	二	二	
672		コ	行脚文集		和	一	一	
673		コ	十六夜日記講義	三木五百枝	仮	一	一	
674	34オ	コ	和漢朗泳集		和	二	一	
675		コ	同　訳解		仮	一	一	
676			商売往来		和	一	一	書名下に批点（朱）
677			実語教童子教		和	一	一	書名下に批点（朱）
678		コ	出雲風土記		仮	一	一	著者「木村亮吉」抹消 装訂「和」を「仮」に訂正

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
679			亜細亜迺光	木村亮吉	仮	二	二	書名下に批点(朱)
680	34ウ	コ	西行物語		仮	一	一	
681		コ	註釈奥の細道	三宅木仙	仮	一	一	
682		コ	副注栄華物語	小杉榲邨	仮	四	四	
683		コ	校訂標註土佐日記	増田千信	仮	一	一	
684			教育聖諭教本	湯原元一	和	一	一	枠外下部に批点(朱)
685		コ	方丈記読本	落合直文	仮	一	一	書名「方」に訂正あり
686		コ	徂来先生詩文国字牘		和	二	一	
687		コ	中等国文読本		和	一〇	一〇	
688		コ	中等国語読本		和	一〇	一〇	
689		コ	新体国文読本		和	一〇	一〇	
690		コ	女四書		和	七	五	
			(以下1行空白)					
	35オ・ウ		(未記載)					界線あり
	36オ		**随筆及伝記**					
691		随	学海針略	渡辺重石丸	洋	一	一	上部記号墨書
692		随	破邪訣	佐治実然	仮	一	一	上部記号墨書
693		随	国迺真柱	千家尊福	仮	三	三	上部記号墨書
694		随	両都秘事記		和	一	一	上部記号墨書
695		レ	近世畸人伝	伴蕎蹊	和	一〇	五	
696		随	藤樹先生文武問答	岩井任重	和	一	一	上部記号墨書
697		〃	鬼神論	新井白石	和	二	二	上部記号墨書
698		〃	士道要論	斎藤徳蔵	和	一	一	上部記号墨書
699		〃	艮斎閑話	安積艮斎	和	二	二	上部記号墨書
700		〃	改正翁問答	中江藤樹	和	五	五	上部記号墨書
701		〃	秋斎閑語	桂秋斎	和	一	一	上部記号墨書
702	36ウ		正信集		和	一	一	
703		ジ	秉燭譚	伊藤長胤	和	五	二	
704		随	集義和書	熊沢蕃山	和	一六	五	上部記号墨書
705		レ	先哲叢談	原念斎	和	八	四	
706		レ	先哲叢談	東条琴台	和	八	四	
707		随	桃源遺事		和	二	二	上部記号墨書
708		〃	闢邪小言	大橋順	和	四	四	上部記号墨書
709		〃	棓窓漫筆　前編	太田錦城	和	二	二	上部記号墨書
710		〃	同上　後編	同上	和	二	二	上部記号墨書
711		〃	同上　三編	同上	和	二	二	上部記号墨書
712		〃	貞丈家訓	伊勢貞丈	和	一	一	上部記号墨書
713		モ　〃	無人島之記	高野長英	和		一	上部記号「モ」鉛筆書 上部記号「〃」墨書
714	37オ	〃	渡辺登へ申渡書		和	一		上部記号墨書
715		〃	慎機論	高野長英	和	一		上部記号墨書

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
716		〃	夢物語	同上	和	一		上部記号墨書
717		〃	夢〃物語	同上	和	一		上部記号墨書
718		レ	大東世語	服部南郭	和	五	一	
719		〃	一話一言書抜	太田南畝	和	一	一	上部記号墨書
720		レ	続近世先哲叢談	松村操	和	一	一	
721		〃	遭厄日本紀事附録		和	二	二	上部記号墨書
722		〃	鎖国論		和	二	二	上部記号墨書
723		〃	草茅危言	中井竹山	和	一〇	五	上部記号墨書
724		〃	長崎実録	田辺茂啓	和	一〇	三	上部記号墨書
725		〃	好古日録	藤原貞幹	和	二	二	上部記号墨書
726		ジ	開発新式日本文典	林甕臣	和	五	五	
727		レ	達人志操	近藤瓶城	仮	一	一	上部記号墨書
728	37ウ	レ	高野長英伝	長田権次郎	仮	一	一	
729		コ	旅の苞	那珂通高	仮	一	一	
			（以下8行空白）					
	38オ・ウ		（未記載）					オモテのみ界線あり（3行目まで、通常と相違）
	39オ		（未記載）					用紙切断、半丁のみ
			書名	**編著者**	**装**	**巻数**	（破損）	
730			大八洲雑誌		仮		（破損）	
731			殉難後草	馬場文英	和		一	上部記号抹消
732			辛亥気候懸断録	菅原正義	和		一	著者名上部に批点（朱）
733		ケ	詩経講義　邶風（斯文学会）		和		一	
734		ケ	易経講義　（斯文学会）	根本通明	和		一	
735	39ウ	随	靖献遺言講義	浅見安正	和	八	二	上部記号墨書 上部記号部に朱書あり
736		〃	靖献遺言	浅見安正	和		一	
737		モ	照井小作伊藤長有両先生碑文		和		一	上部記号鉛筆書 著者名上部に批点（朱）
738		ケ	孟子講義　梁恵正章（斯文学会）	三島毅	和		一	
739			一辞千金作文秘訣　一	岡三慶	和		一	著者名上部に批点（朱）
740			戦時教育策	伊藤嘉矩	仮		一	
741		・	明治勅語　△	植村恭通	和		一	書名上部朱墨混色 著者名上部に批点（朱）
742		ケ	韓非子講義（斯文学会）	豊島毅	和		一	
743		・	学海針路	渡辺重石丸	洋		一	上部記号朱墨混色
744	40オ	ゴ	日本助辞詳解	中村五十一郎	仮		一	
745		レ・	十三朝紀聞	源照矩	和	七	二	上部記号「・」墨書 装訂下書入「今日鈔ト合」（墨）
746		・	今日鈔	源照矩	和	二		行間に書入
747		ケ	孟子講義　公孫丑章（斯文学会）		和		一	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
748		ケ	詩経講義　周郤(斯文学会)	広瀬範治	和		一	
749		・	読史便覧	鈴木成章	和		一	上部記号朱墨混色
750			教庭叢書	久米幹文	和		一	著者名上部に批点(朱)
751			上書	宇陀太郎等	仮		一	著者名上部に批点(朱)
752		・	仮名交文典	田中煥乎	和		一	
753			蒲生君平遺稿	県信緝	和		三	著者名上部に批点(朱)
754		・	国廼真柱	千家尊福	仮		三	上部記号部に「⌋印(墨書)あり
755		・	破邪談	佐治実然	仮		一	
756		随	金烏玉兎集	安倍晴明	和	五	一	上部記号墨書
757		随	五体黒場必携	米莽	和		一	上部記号墨書
758		レ・	欧南遣使考	平井希昌	仮		一	上部記号「・」朱墨混色
759		ジ・	和文類語解	岡村覚太郎	和		二	上部記号「・」朱墨混色
760	40ウ	ジ・	虚字解	皆川淇園	和		二	上部記号「・」朱墨混色 著者名「淇」書直
761		ジ・	続虚字解	皆川淇園	和		二	上部記号「・」朱墨混色
762		コ	古今和歌集講義　春秋	本居豊穎	仮		一	上部記号墨書
763		コ・	出雲風土記　△		仮		一	上部記号「・」朱墨混色
764		・	柳津霊境案内	長谷川柳渓 佐瀬三余	仮		一	上部記号「・」朱墨混色 上部記号部に汚れ
765		・	太史公助字法	皆川淇園	和		二	上部記号「・」朱墨混色
766		随・	白石遺文	立原万	和		二	上部記号「随」墨書
767		・	白石遺文拾遺	立原万	和		二	上部記号朱墨混色 上部記号部に抹消あり
768		ケ	書経講義(斯文学会)	鷲津宣光	和		一	
769		・	対照聖書辞典	田村直臣	洋		一	上部記号朱墨混色
770		・	亜細亜廼光	アーノルド 木村亮吉	仮		二	上部記号朱墨混色
771	41オ	コ・	副註栄華物語	小杉榲邨	仮		四	上部記号「・」朱墨混色
772		・	諸社通用神祇服忌令大成		和		一	上部記号朱墨混色
773		・	国語学指南	斎藤普春	仮		一	上部記号朱墨混色
774			日本大論集　三巻三号		仮		一	
775		法	性法講義	ボアソナード	洋		一	上部記号墨書
776		ケ	詩経講義　斎風唐風等(斯文学会)		和		一	
777		・	帝国憲法 義解 皇室典範	伊藤博文	洋		一	
778		ケ	論語講義　学而(斯文学会)	岡松辰	和		二	
779	41ウ		北斗中正暦	工藤茂三郎	仮		一	書名下に批点(朱)
780			蔵山図録	宮城晋一	和		一	書名下に批点(朱)
781			大日本知罪法一目表	遠藤菊次	折本		一	書名下に批点(朱)

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
782		レ・	続史籍集覧　矢島十二頭記	近藤瓶城		一	一	上部記号「レ」墨書 巻数部書入「奥州葛西ト合」（墨） 冊数「一」抹消
783		レモ・	奥州葛西実記	近藤瓶城		一	一	上部記号「モ」鉛筆書 冊数「一」抹消
784			袖中草分衣		折本		一	書名下に批点（朱）
785			修身談	石井光致	和		三	書名下に批点（朱）
786		レ・	春秋左氏捷覧	龍共而安	和		一	
787			文章軌範明弁	岡三慶	和			上部記号抹消
788		コ	万葉集美夫君志	木村正辞	仮			上部記号墨書
789		レ	御系譜		和		三	
790		モレ	奥南盛風記		和	六	二	上部記号「モ」鉛筆書 巻数訂正あり
791		モレ	盛藩年表		和		三	上部記号鉛筆書
792		レ	新増箋注蒙求	平田豊愛	和		三	
793		レ	平泉志	高平真藤	和	二	一	
794		モ	東方策秘伝置文		和	三	一	上部記号鉛筆書 書名下に批点（朱）
795		随	旅中鴃舌談	棘樹光映	和		一	上部記号墨書
796	42オ	モレ	南部根元記		和		二	上部記号「モ」鉛筆書
797		レ	宝譜伝		和		二	
798			八陣要解		和	一	一	書名下に批点（朱） 巻数部書入「積卒五営ト合」
799			積卒五営		和	一		書名下に批点（朱）
800		モ随	寛文松前蝦夷一揆聞書		和		一	上部記号「モ」鉛筆書 上部記号「随」墨書
801		・	文化律		和		一	
802		モ	諸家上書類集		和		一	上部記号「モ」鉛筆書 書名下に批点（朱）
803		モ	雑々秘録　梁田物集女書留之内抜書		和		一	上部記号「モ」鉛筆書 上部記号部に墨書あり
804		モレ	東奥軍記		和		二	上部記号「モ」鉛筆書
805	42ウ	モ	鶯宿春陽堂縁起		和		一	上部記号「モ」鉛筆書 書名下に批点（朱）
806		ツ・	両都秘事記		和		一	上部記号「ツ」墨書
807		シ・	御鎮座次第記		和		一	
808		シ・	造伊勢二所太神宮宝基本記		和		一	上部記号「・」朱墨混色
809		シ・	豊受皇太神宮御鎮座本記		和		一	
810		・	御鎮座次第記		和		一	書名・上部記号抹消
811		シ・	御鎮座伝記		和		一	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
812			慮外打之類諸始末方		和		一	
813		モ	佐竹家藩中書留		和		一	上部記号「モ」鉛筆書
814		モ	山陽随筆五篇	浅石	和	五	五	上部記号「モ」鉛筆書 書名下に批点(朱)
815		モ	旧記(聞書)	伊藤某	和		一	上部記号「モ」鉛筆書き 書名下に批点(朱)
816		モレ	南部古実記抜書		和		一	上部記号「モ」鉛筆書
817			岩手の栞	坂牛祐直	仮		一	書名下に批点(朱)
818			廿年明治天皇奉悼号	時事新報	仮		一	書名下に批点(朱)
819		モ	奥南封域志御家譜之巻		和		一	上部記号「モ」鉛筆書 書名下に批点(朱)
820	43オ	随モ	安政見聞志		和	三	一	上部記号「随」墨書 上部記号「モ」鉛筆書
821		・	御成敗式目		和		一	上部記号「・」朱墨混色 上部記号部に「本朝三字経」まで「(」印あり
822		・	田園類説	谷猶右エ門	和		二	上部記号「・」朱墨混色
823			本朝三字経	大橋君美	和		一	
824		コ・	校訂標註土佐日記	増田于信	仮		一	
825		コ・	国字孝経		和		一	上部記号部に抹消あり
826		・	教育聖諭教本	湯原元一	和		一	
827		コ・	方丈記読本	落合直文	仮		一	
828		随モ	登曽艸紙　下		和		一	上部記号「随」墨書 上部記号「モ」鉛筆書 巻数部に抹消あり
829		モ	公義へ御書上写		和		一	上部記号「モ」鉛筆書 書名下に批点(朱)
830	43ウ	モ	旧記録抜書		和		一	上部記号「モ」鉛筆書 書名下に批点(朱)
831		モ	キキン諸節諸覧		和		一	上部記号「モ」鉛筆書 書名下に批点(朱)
832			三河後風土記　零本		和	四	四	書名下に批点(朱)
833		随	寛永小説	林信篤	和	一	一	上部記号「随」墨書
834		チ	盛岡砂子			五	三	上部記号「チ」墨書
835		チ	盛岡砂子		和	二	二	上部記号「チ」墨書
836		・	春秋左氏伝評林　林註　△		和	七〇	二〇	
837		ゴ・	訓点復古	日尾荊山	和		二	
838		随	譚海	依田学海	和		四	上部記号「随」墨書
839	44オ	随・	士道要論	斎藤徳蔵	和		一	上部記号「随」墨書 上部記号「・」朱墨混色

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
840		・	扶桑拾葉集　巻六 相模家集　其他	和		一		
841		・	同　巻十 歌序		和		一	
842		・	同　巻十二 うたゝね等		和		一	
843		・	同　巻二十六 永禄歌合外		和		一	
844		・	文法捷径	那珂通高	和		二	
845			喩草	児島頤斎	和		二	書名下に批点(朱)
846		レ・	近世畸人伝	伴蒿蹊	和	一〇	五	
847		コ・	藤樹先生文武問答	岩井任重	和		一	
848		コ・	行脚文集　巻一		和		一	
849		・	鬼神論	新井白石	和		二	
850		随・	艮斎間話	安積艮斎	和		二	上部記号「随」墨書
851		〃・	あつまなまり	石川六樹園	和		二	上部記号「〃」墨書
852		〃・	改正　翁問答	中江藤樹	和		五	上部記号「〃」墨書 上部記号「・」朱墨混色
853		〃・	秋斎間語	桂秋斎	和		一	上部記号「〃」墨書 上部記号「・」朱墨混色
854		〃・	正信集		和		一	上部記号「〃」墨書 上部記号「・」朱墨混色
855	44ウ	〃	啓蒙弘道館記述義	藤田東湖	和		三	上部記号「〃」墨書
856		〃	新策正本	頼山陽	和	六	五	
857		・	秉燭譚	伊藤長胤	和	五	二	上部記号「・」朱墨混色 上部記号書直し
858		・	集義和書		和	一六	五	上部記号「・」朱墨混色
859		レ・	先哲叢談	原念斎	和	八	四	
860		レ・	先哲叢談後編	東条琴台	和	八	四	
861		随・	桃源遺事		和		二	上部記号「随」墨書
862		〃・	闢邪小言	大橋順	和		四	上部記号「〃」墨書
863		〃	新論	会津正志	和		二	上部記号墨書
864		〃・	梧窓漫筆	太田錦城	和	二	二	上部記号「〃」墨書
865		〃・	梧窓漫筆　後編	太田錦城	和	二	二	上部記号「〃」墨書
866		〃・	梧窓漫筆　三編	太田錦城	和	二	二	上部記号「〃」墨書
867	45オ	〃・	貞丈家訓	伊勢貞丈	和		一	上部記号「〃」墨書
868		・	徂徠先生詩文国字牘		和	二	一	
869		・	無人島之記		和	一		上部記号「・」朱墨混色
870		・	渡辺登へ申渡書		和	一		上部記号「・」朱墨混色
871		・	慎機論		和	一	一	上部記号「・」朱墨混色
872		・	夢物語		和	一		上部記号「・」朱墨混色

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
873		・	夢々物語		和	一		
874			弘道館記述義	藤田東湖	和	二	一	書名下に批点(朱)
875			今書	蒲生秀実	和	一	二	書名下に批点(朱)
876		レ・	大東世語	服部南郭	和	五	一	
877		・	一話一言書抜	太田南畝	和	一	一	
878		・	続近世先哲叢談　下	松村操	和		一	上部記号「レ」抹消 書名「下」(二個目)鉛筆書
879	45ウ	・	遭厄日本紀事附録		和		二	
880		・	鎖国論		和		二	上部記号「・」朱墨混色
881		・	草茅危言	中井竹山	和	五	五	書名「草」左下に「レ」の 書入れ(鉛筆書)
882		・	長崎実録	田辺茂啓	和	十	三	
883		ケ・	易学啓蒙		和		一	
884			梅花心易卦爻定数明鑑		和		一	
885			吉田系図		和		一	
886			国学彙纂		和		一	上部記号部に記載あり(「<」)
887			細工之書		折本		一	書名下に批点(朱墨混色) 装訂「和」を「折本」に訂正
888		ケ・	詩集伝		和	二〇	八	
889		・	刑法		洋		一	
890		ブ	続文章軌範講義	下森来治	仮	七	一	
891	46オ	ブ	唐宋八大家講義　一	石川英	仮	七	一	
892			旧約聖書歴史	マクラレン	洋		一	
893		ブ	文章軌範講義	下森来治	仮	七	一	
894			旧約史略全書	ウラセル	洋		一	書名下に批点(朱墨混色)
895			世界史	アンダーソン	洋		一	書名下に批点(朱墨混色)
896			靄護精舎蔵書目		和		一	書名と装訂抹消
897		ブ	点註正文章軌範	宮脇道赫	和	七	三	
898		ブ	点註続文章軌範	宮脇道赫	和	七	三	
899		レ	春秋左氏伝講義	石川鴻斎	和	十二	十二	
900		・	文豹一斑	内藤恥叟	仮	十一	一	上部記号「・」墨書 書名下に批点(朱)
901		ジ・	普通文典	峰原平一郎	仮		一	
902			高等国文　自一至八	国語伝習所	仮		八	
903	46ウ	コ・	十六夜日記講義	三木五百枝	仮		一	
904		ゴ・	訂正中等国文典	三土忠造	和		三	上部記号部に抹消あり
905		・	明律		和		九	
906			リチャードコブデン	徳富健次郎	仮		一	書名下に批点(朱墨混色)
907		レ	十八史略字引	本木貞雄	和		一	上部記号部に抹消あり
908		レ	日本外史字訓	新井隆有	洋		一	
909		レ・	平家物語抜書		和		一	書名に訂正あり

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
910	47オ	レ・	大日本維新史	重野安繹	和		二	
911			教育学	大瀬甚太郎	和		一	書名下に批点(朱墨混色)
912			台湾地理誌	大町信	仮		一	書名下に批点(朱墨混色)
913		ケ	論語講義	岡松甕谷	和		一	
914		・	和漢朗詠集		和		一	上部記号「・」朱墨混色
915			今体文章機要　正編	千河岸貫一	和	八	四	
916			同　外編	同	和	八	四	
917		ゴ・	国語かなづかひ	石田道三郎	仮		一	上部記号「・」朱墨混色
918			祝祭日講話	女子高等帰範校	和		一	書名下に批点(朱墨混色)
919			漢文獨習捷径	西森武城	和		一	書名下に批点(朱)
920			通俗進化論	城泉太郎	仮		一	書名下に批点(朱)
921			言文一致明治書翰文	荒川鴻嶺	仮		一	書名下に批点(朱)
922	47ウ		算梯一百好解義		和		一	書名下に批点(朱)
923		ツ	悉曇書		和		一	上部記号「ツ」墨書
924			冪術解義		和		一	書名下に批点(朱)
925			天元鈎股弦百好点竄		和		一	書名下に批点(朱)
926			大八洲学校講義録附録歌文		和		一	書名下に批点(朱)
927		モ	岩手県郷土史	一戸隆次郎	和		一	上部記号「モ」鉛筆書 書名下に批点(朱墨混色)
928			日本外史論文講義	三浦亀堂	仮		一	書名下に批点(朱墨混色)
929			普墺戦史	渋江保	仮		一	書名下に批点(朱墨混色)
930			クロンヱル	竹越与三郎	仮		一	書名下に批点(朱墨混色)
931		ジ・	尚古仮字格		折		一	
932		チ	歴史及地理講義雑録		仮		一	上部記号「チ」墨書
933		チ	地文学講義	山上万次郎	仮	一	一	上部記号「チ」墨書
934	48オ	チ	地質学講義	歴史及地理講習会		一		上部記号「チ」墨書 装訂部書入「前地文ト合」
935		レ	古事記	飯田武郷	和	一	一	
936		レ	神皇正統記	久米幹文	一			
937		ジ	日本文典	落合直文	和		一	
938		ジ	日本大文学史　一	大和田建樹	仮		一	
939		ケ	小学講義	近藤延	仮	六	一	
940		コ	枕草子講義	小中村義象	和	一	一	
941		コ	徒然草講義	小杉榲邨	和	一		
942		コ	竹取物語講義	関根正直	和	一		
943		コ	万葉集講義	木村正辞	和	一		
944		コ	源氏物語講義	本居豊穎	和	一		
945		コ	古今和歌集講義	本居豊穎	和	一		
946	48ウ		年中用文章		和		一	書名下に批点(朱)
947		・	商売往来		和		一	
948		・	実語教童子教		和		一	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
949			累乗開方算顆術		和		一	書名下に批点(朱墨混色)
950			鉱物学及地質学	冨山房編輯所	仮		一	書名下に批点(朱墨混色)
951			文家必用		和		一	書名下に批点(朱墨混色)
952			利運談	八隅中立	和		四	書名下に批点(朱墨混色)
953			支那歴史	井上陳政	和	一	一	書名下に批点(朱墨混色)
954		ゴ・	国語学	那珂通世	一			
955		ブ・	標註文章軌範評林読本	鈴木貞次郎	和	一	一	
956		ブ・	同　続	同	和	一	一	
957		・	字彙		唐		十二	冊数「十四」を「十二」に訂正
958		コ・	中等国文読本		和		十	
959		コ・	中等国語読本		和		十	
960		コ・	新体国文読本		和		十	
961		ジ・	国書解題	佐村八郎	仮			
962		コ	芭蕉句選		和		一	
963		レ	斎部秘伝神楽本記		和	三	一	
964	49オ	コ	古今和歌集　上		和	十	一	
965			約翰伝福音書集註　上		洋		一	書名下に批点(朱墨混色)
966			国光					書名下に批点(朱墨混色)
967			散シ文書式	伊藤元延	和		一	書名下に批点(朱墨混色)
968		・	標註職原抄校本	近藤芳樹	和		六	
969		・	壺井職原抄	壺井義知	和		五	
			(「壺井職原抄」枠上部に「653」、下部に「○」					
970			増註職原抄		和	二	一	上部記号(「・」)抹消(墨書)
971			冠位通考	石川正明	和		一	
972			職原抄		和		四	
973			職原抄		和		二	
974			服忌令		和		一	
975			儀式		和		十	
976	49ウ		官職知要		和		三	
977			職原抄聞書		和		一	
978			法曹至要抄		和		三	
979			衣文愚童訓		和		一	
980			日中行事		和		一	
981			三中口伝		和		二	
982			内裏式		和		一	上部記号(「・」)抹消(墨書)
983			白川殿学則		和		一	書名下に批点(朱墨混色)
984		・	式目註		和		二	
985	50オ	レ・	泰平年表		和		五	
986		・	殿居嚢		和		二	
987		・	青標紙		和		二	
988			内閣字府		和		二	書名下に批点(朱墨混色)

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
989		・	東萊博議		唐		四	
990		コ	歌枕秋の寝覚		和		二	
991		ブ	入蜀記	陸游	和	六	二	
992		ブ	文選口文	片山兼山	和	十二	十二	
993		ブ	幻中真	烟霞山人	唐		四	
994		・	四季の草	伊勢貞丈	和	二	二	巻数「四」を「二」に訂正
995		・	軍用記	伊勢貞丈	和	七	二	
996		ケ・	周礼	鄭玄	和	四二	七	
997		・	発字四声便蒙解	小川道記	和	二	一	
998		・	和字大観抄	無相	和	二	二	
999	50ウ	・	和字正濫抄		和		五	
1000			新撰中等文典	弘文館	和		二	
1001		・	言葉のやちまた	本居春庭	和		二	
1002		チ	諸因名義考	斎藤彦麿	和		二	上部記号「チ」墨書
1003		・	故実年中行事小笠原流		和		一	
1004			東北遊日記	吉田松陰	和		二	書名下に批点（朱）
1005		チ	常陸史料郡郷考	宮本元球	和	一二	三	上部記号「チ」墨書
1006		ケ・	孝経小解	熊沢了芥	和		二	
1007		ケ・	古文孝経参疏	山中祐之	和		三	
1008		・	俳諧歳事記	曲亭馬琴	和		二	
1009		ジ	地名字音転用例	本居宣長	和		一	
1010		・	垂加翁神説	跡部良顕	和		一	
1011	51オ	ケ	三国通覧	林子平	和		一	上部記号「ケ」墨書
1012		・	好古日録	藤原貞幹	和		二	
1013		・	国語学	関根正直	仮		一	
1014		ジ・	仮名遣教科書	物集高見	和		一	
1015		ジ・	てにをは教科書	物集高見	和		一	
1016		ジ・	柳園叢書　言語四種論	鈴木朖	和	一	一	書名二行
1017		ジ・	活語断続譜	鈴木朖	和	一		
1018		ジ・	開発新式日本文典	林甕臣	和		五	
1019			吾国体と基督教	加藤弘之	仮		一	
1020		・	大内裏図考証	裏松光世	和	三十二	十四	上部記号「・」二種類あり、一種は墨書
1021		・	貞丈雑記	伊勢貞丈	和	十六	六	
1022	51ウ	・	歌舞音楽略史	小中村清矩	和		二	上部記号「・」墨書
1023		・	福恵全書		和	三十二	十八	上部記号「・」二種類あり、一種は墨書
1024		ジ・	雅言解	鈴木重嶺	和		四	上部記号「・」朱墨混色か
1025		・	新律附例解補正	高橋秀好	和		六	
1026			続々群書類従	古書保存会	仮	十一	四	書名右寄り
1027		チ	日本地理志料	村岡良弼	和	七十一	十五	

番号	本文丁数	上部記号	書名	編著者名	装訂	巻数	冊数	備考
1028		・	栗里先生雑著	栗田寛	和	六六	十六	巻数「十五」を「六六」に訂正
1029		レ	楠廷尉秘鑑		洋		一	
1030			謝選拾遺	頼山陽	和	七	三	書名下に批点(朱) 装訂に訂正あり
1031		・	改正地方大成	橋爪貫一	和	五	三	
1032		・	地方大概集　第一集	加藤高文	和	九	十	上部記号「・」朱墨混色か
1033		ブ	文章軌範文法明弁	岡三慶	和		九	
1034		ジ・	康熙字典		和	四〇	四	冊数「十四」を「四」に訂正
1035	52オ	ブ	文心雕龍	劉勰	唐	四	二	著者名次項にはみ出し 装訂訂正あり
1036		ケ・	大学章句俚諺鈔	毛利貞斎	和	五	五	
1037		ケ・	中庸章句俚諺鈔	同	和	五	五	
1038		ケ・	論語集註俚諺鈔	同	和	二〇	二〇	
1039		ケ・	孟子集註俚諺鈔	同	和	二〇	二〇	
1040		ブ	文章軌範講義　正続篇	岡三慶	和	六	六	
1041		レ・	春秋左氏伝国字弁	加藤公逵	和	三〇	一五	上部記号横に「5」らしき 墨書あり
1042		チ	華夷通商考	西川忠英	和		二	上部記号「チ」墨書
1043		・	天保御改　服忌詳解		和		一	
1044		・	武雑記補註	長沢伴雄補	和		三	
1045		・	禁秘御鈔階梯	藤原公麗	和		三	
1046		レ・	祭天古俗説弁義	宮地巌夫	仮		一	
1047	52ウ		茶事談　上	南秀女	和		一	書名下に批点(朱)
1048		・	制度通	伊藤長胤	和		十三	
1049		シ・	葬祭式考証	栗田寛	和		一	
1050		シ・	葬祭式	同	和		一	
1051		・	本朝軍器考	新井白石	和	十二	五	
1052		・	同集古図説	同	和	二	二	
1053		・	葬礼私考	栗田寛	和		一	上部記号「・」朱墨混色か